

「地図で見る日本の町並みⅡ ～歴史が生きる景観～」

【4月1日(土)～5月25日(木)】

■収蔵資料展示について

岐阜県図書館に併設されている世界分布図センターは、全国唯一の「県立の地図の資料館」で、児童生徒の学習から専門家の学術研究まで幅広い活動を支援するため、「古地図（資料的価値の高い現在発行されていない地図）」、「国土地理院関係地図」、「旧ソ連製地図（旧ソ連が作製した東欧・アジア・アフリカ諸国の地図）」、「外邦図（旧日本軍が作製した国外の地図）」を4本柱に、世界約180余の国と地域の地図とその関連資料14万点を収蔵しています。

こうした収蔵内容の一端を皆様にご覧いただき、館内外で計画的に地図展を開催しています。

■重伝建地区と展示の概要について

わが国には、城下町、宿場町、門前町など歴史的な集落や町並みが全国各地に残されています。これらの多くは、地域住民や行政による様々な取り組みや努力によって守られてきたものです。中でも、「重要伝統的建造物群保存地区」（以下「重伝建地区」）は、市町村が定めた伝統的建造物群保存地区の中から、価値が高い保存地区として国が選定したものです（平成19年1月1日現在で38都道府県68市町村79地区）。

昨年度、これら「重伝建地区」のうち、岐阜県内にあるすべての「重伝建地区」（高山市〔2地区〕・美濃市・恵那市〔旧岩村町〕・白川村）と、県外では金沢・萩などを取り上げ、様々な種類の地図で紹介しました。

第2回目の今年度は、観光地としても全国的に有名な函館、京都、神戸、長崎にある「重伝建地区」を紹介しました。

■展示資料について

「重伝建地区」は、関係市町村が観光用にその地区を紹介するための親しみやすいイラストマップや、写真付きの解説等を作製しています。展示では、関係市町村から



展示の様子（京都のコーナー）

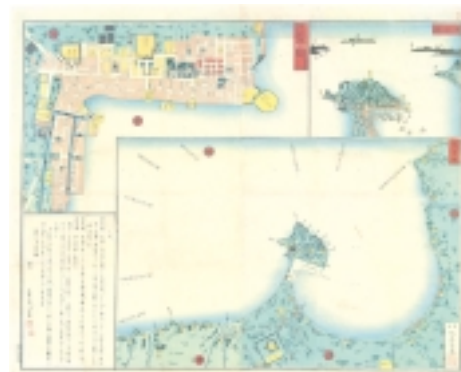
収集したこれらの地図を、実際に町並みを観光しているような気分でお楽しみいただけるように、各地区ごとに紹介しました。

また、現在の町並みとの比較もできるように、「重伝建地区」のある町が描かれた江戸時代や明治時代の古地図も展示しました。

■展示資料の紹介（函館のコーナー）



函館市が
作製した
「函館の
歴史的町
並み」の
パンフレット



「函館全図」
/1860
(万延元)
年刊

開港間もない函館が、広域図、市街図、鳥瞰図と、3種類の方法で描かれています。